

Economics, Management & Information Science

経済・経営・情報をマルチに学び、
自分の可能性を目覚めさせる。

経済情報学科





経済情報学部長

有吉 勇介

～自分の問いを立て、答えを創る力を育てる～

私たち経済情報学部では、変化の激しい現代社会で真に活躍できる人材の育成を目指しています。今の世の中にはさまざまな選択肢がありますが、そのすべてに「正解」があるわけではありません。むしろ、現代社会は「正解のない問い」にあふれています。地球温暖化や感染症、人口減少、経済格差、AIによる急速な社会変化など、世界中で私たちが直面している課題には、簡単に答えが出せるものはほとんどありません。企業活動においても、どのような商品が市場に受け入れられるかは、誰にも確実には分かりません。これからの社会では、こうした「答えのない問い」に対して、自ら考え、他者と協力しながら、創造的に取り組んでいく力が求められます。

高校までは、すでに答えのある問題を「正確に」「速く」解く力が重視されてきました。しかし、大学はまったく異なる学びの場です。大学では、「なぜそうなるのか」「他の考え方はできないか」といった問いを自ら立て、考え、議論し、試行錯誤を重ねながら、自分なりの答えを見つけていく姿勢が大切になります。この過程こそが、社会に出てから必要となる「正解のない問題」への対応力を育てるのです。

経済情報学部では、経済・経営・情報の3つの分野からなる多様な学びを提供しています。これら3分野、つまりマーケット・ビジネス・ITについての広範な知識と理解を深め、基礎から応用までの幅広い視点を育てます。

カリキュラムは、段階的な成長を重視しています。1・2年次では、それぞれの分野の基礎をしっかりと身につけ、3年次からは専門分野を深めながら、ゼミでの主体的な学びが始まります。ゼミでは、自分の関心に基づいてテーマを設定し、資料を集め、分析し、論理的に文章としてまとめて卒業論文を完成させます。このプロセスを通じて、「正解のない問い」に向き合う力を鍛えます。

また、本学部の大きな特徴は、経済・経営・情報という異なる専門をもつ教員から直接学べることです。ゼミや授業では、受け身ではなく、自ら学びに向かう姿勢が求められており、質問や議論が日常的に行われています。

大学での学びは、知識を詰め込むことではなく、「深く考える力」を育てることにあります。これからの時代を生きるために必要なのは、自分で問いを立て、他者と協力しながら、その問いに自分なりの答えを見出せる力です。本学部での学びを通して、皆さんが未来を切り拓く力を身につけ、複雑で変化の激しい社会において、自信をもって歩んでいけるようになることを心より願っています。皆さんの情熱と意欲が、新しい知識と成長の基礎となることを楽しみにしています。



学科紹介動画はこちら

経済情報学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育の理念・目的と求める学生像

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。

- ・日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人
- ・経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人
- ・現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原理を学び、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

経済情報学科の教育課程に適應するために必要な入学時の能力や適性等は、以下の通りです。

（知識・技能）

- ①人間・社会・自然に対する深い理解、経済・経営・情報3分野の基礎的な知識の修得につながる「高等学校等で学ぶ基礎的な知識・技能」

（思考力・判断力・表現力）

- ②問題分析力・解決力・情報収集力やコミュニケーション力につながる

②-a.「高等学校等で学ぶ基礎的な知識・技能をふまえた思考力・判断力」

②-b.「数学的思考力」または「英語の読解力と表現力」

②-c.「専門分野（経済・経営・情報）に関する文章の読解力と自らの考えを論理的にまとめる表現力」

（主体性・多様性・協働性）

- ③実社会における実践や問題解決力につながる「責任ある選択・意思決定、組織の仕組みの改善、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に向けて行動しようとする意欲」

中心的な活躍ができるジェネラリストに

経済

地域の文化、経済、
社会保障や財政、産業など

経営

企業や組織の運営、働き方、
コストや収支の管理など

情報

人工知能の仕組みや理解、
効率的な情報収集や省力化の技術など

現代社会では、文理複眼的な思考ができる人材
が求められており、文系学生にも理系の素養が
理系学生にも文系の素養が必要です。

例えば、
ビジネスとして成功する上での社会情勢の分析力、
資産管理の力、実務上必要な情報技術力などを
修めた人材を求められています。3分野を横断
的に学修できるのは、本学科の大きな魅力です。



本学は、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定（リテラシーレベル）」を受けています。

経済情報学科の雰囲気の一部を紹介します。

学生主体の学修環境、
少人数を強みにしたユニークなゼミ、
勉学の成果を凝縮した研究発表。
4年間を通してゆたかな時間が
流れていきます。



3年次以降のゼミでは、卒業論文の執筆に向けて、
専門的な内容を学修したり、討論したり、
あるいは現場見学に行ったりもします。

経済学では、財、サービス、労働、資本、貨幣などが市場を通じて社会の中を循環する様子（経済循環）を、理論とデータの両面から説明する技術を学びます。経済学には、家計や企業などの行動を分析するミクロ的視点と、経済全体での出来事を分析するマクロ的視点のふたつがあります。

このような視点を軸として金融論、財政学、国際経済学などを履修することによって、私たちの生活にかかわる諸問題を把握・分析するための問題発見能力と企画分析能力を磨くことが出来ます。これらは、ビジネスパーソン・公務員を含めたどのキャリアにおいても、重要性が近年特に増しています。

大学生も、数年後には自分たちが経済社会を運営する立場になります。そのために経済コースでは、規制緩和や年金といった制度・政策、日本と世界の経済史、国際貿易などの世界情勢などについての理解を深めることを目指します。さらに、経済問題を客観的に検証するためには経済データを統計的に分析することが必要であるため、情報処理に関するトレーニングも行います。

経済の論理と技術のみならず、倫理を身に付け、世界や国といった全体を見渡すと同時に、経済主体として家計や会社を経営する能力を身に付けたグローバルな人材を育成します。

想定される進路

1. 行政機関におけるICTを活用した企画、政策の立案、実行
2. 企業、行政機関における情報活用システムの企画、事務、営業
3. 金融機関における業務



社会思想史、経済学史

経済コース長・教授

林 直樹

思想史と格闘し続けてきました。人同士の繋がりを辿る中で過去の思想＝アイデアの相関を探り当て、アイデア自体をより深く理解することを目指しています。例えば、確率論的統計学で著名なベイズが約3百年前に活躍した人で、経済学の祖ヒュームやアダム・スミス、あるいはベンジャミン・フランクリンと非常に近い人間関係の中にいたと知れば、ワクワクしてきませんか。思想をつかむことは同時に著作＝テキストを解析することです。テキストマイニングという、将来性に満ちてはいても取り扱い注意な技術に活を入れることも、最近の関心事です。



公共経済学

経済コース・教授

荒井 貴史

政府による消費者や生産者に対する課税や補助金が、資源配分にどのような影響を与えるのか。価格や取引に対する規制が、社会厚生にどのような影響を与えるのか。政府の市場経済での役割はどのようなもので、その役割の理論的根拠は何か。公共財、外部性、不完全競争、情報の非対称性など、厚生経済学の第1基本定理（完全競争市場における均衡配分はパレート効率的である）の前提が損なわれている「市場の失敗」のケースを公共経済学は理論的に分析します。





マクロ経済学

経済コース・教授

井本 伸

マクロ経済学とは、国や地域全体の経済を分析対象とする研究分野です。経済学では全体（マクロ）と個人（ミクロ）を分けて考えます。なぜなら経済問題には「個人ではどうしようもない問題」や「個人としては正しくても、全体としては良くない行動」があるからです。例えば、不景気という経済問題は個人ではどうしようもありません。そして、不景気に節約するという行動は個人としては正しいのですが、経済全体としては物が売れなくなってしまうため良くありません。したがって、個人がどのように行動すべきかだけを考えていては経済全体の問題を解決することはできません。そこでマクロ経済学では、政府が経済全体に対してどのように行動すれば良いのかを考えます。



金融マクロ理論

経済コース・教授

河野 洋

金融システムの在り方について理論的に研究しています。特に、金融仲介機関と市場のどちらが金融システムをより効率的かつ安定的に機能させるかに関心を持っています。又、情報、金融ネットワーク、政府規制等がマクロ経済に及ぼす影響についても興味を持っています。ゼミでは、日本の金融制度や金融政策について基礎知識を確立し、日本の中長期的経済問題に対してどのような対策が必要であるかを議論しています。



応用ミクロ計量経済学

経済コース・教授

堀江 進也

被災者の生活再建、災害の復興資源の配分について研究しています。被災人口が莫大であったとき、被災地域が非常に広範囲にわたる場合、誰から・どこから優先的に支援すべき・復興すべきでしょうか。人の人生を左右する問題ですので、経済学の理解と応用には正確さを求められます。また、「現場」を知ることも重要です。このバランスを持ちつつ、自分が社会で重要なひとりであることを認識した人材を育成したいです。

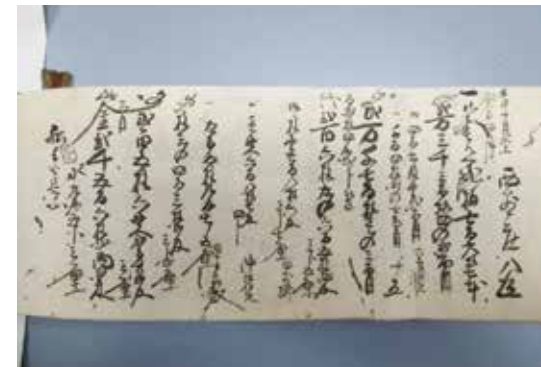


日本近世・近代の流通経済史

経済コース・教授

森本 幾子

研究室では、地域経済の歴史について学ぶことを主軸に据えています。毎年、尾道・宮島・鞆浦など身近な瀬戸内の港へ実際に足を運び、フィールドワークを行うことによって、その歴史的経緯や特徴について理解を深めています。また、手習い本をはじめ当時の仕切状や帳簿などの古文書の解読を通して、日本近世・近代の商取引の特質を学び、現代と比較しながら考察しています。



「明治二年肥物仕切帳」(徳島大学附属図書館所蔵山西家文書)より



環境経済学

経済コース・准教授

岡本 隼輔

岡本研究室では環境経済学を軸に研究に取り組んでいます。この分野では廃棄物問題や地球温暖化問題について、経済学の視点を交えて定量的に捉えています。例えば、製品を作る際に素材の採掘や加工、流通などあらゆる段階で環境負荷が発生しますが、それら全てを考慮して計測していくライフサイクルアセスメントの概念もその1つです。また、ワークショップや工場・現場見学なども実施することで、机上の学修と現実社会とを結びつけながら問題解決能力を養っていきます。



地域木材を使った木質ペレット製造会社の見学



金融論

経済コース・准教授

神崎 稔章

金融の世界は、多くの進歩と制約を経て、現在に至っています。証券化やデリバティブ等の金融革新がもたらす資金の集中や規制のバランスは重要です。ゼミナールでは、自らが主体的に議論できるスタートにたてるにはどうすればよいのかを、経済学と関連付けて進めます。1冊のテキストのみを鵜呑みにせず、社会の在りように疑問を持った方が出てくることを期待します。従って、ディベート大会や学外での経験もゼミナールの特徴です。



尾道市による企業活性化の取り組みと企業価値に関する会議



社会保障、社会政策

経済コース・准教授

佐藤 沙織

人々の生活を支える手段は様々にありますが、戦後日本ではとりわけ医療がその中核を担ってきました。そこで「なぜ日本では医療に偏重して支える仕組みが発展したのか」という課題の究明から、医療だけに偏らないこれからの社会の支え合いの仕組みを展望することを目指しています。

ゼミナールでは、毎年、医療や福祉の現場で調査合宿を実施しています。わからないことを良く知っている人に「聞く」ことで、社会を「知る」楽しさを実感できる機会を提供しています。



吉和地区の住民との交流



卒論報告会



財政学

経済コース・講師

栗田 広暁

財政学とは、政府や公共部門の経済活動である財政を分析対象とする学問です。分析のツールとして経済学を用います。政府は、公共サービスの提供、補助金や課税などを通じて、民間（私たち）の経済活動に介入する存在です。しかし、そもそも、政府はいつ、どのように民間（私たち）の経済活動に介入すべきなのでしょう。また、政府の介入は、経済にどのような影響を与えるのでしょうか。現実社会での政府の介入は、なぜ現状のようになっているのでしょうか。財政学はこういった問いに答えをもたらしてくれます。財政学を学びながら、一緒に考えていきましょう。



経営学は、人、もの、マネー、情報などの経営資源を活用し、市場ニーズに応じて良質な製品とサービスを消費者へ経済的に提供するための企業組織経営の学問領域です。この専門領域を内容とする当経営コースは、経営学の基本とする経営戦略、経営組織、マーケティングの理論と方法論及び経営分析、財務・税務管理、現場管理の実務、そして経営学の史的展開を体系的に学修し、将来には企業組織の事業あるいは行政組織のプロジェクトの推進を担うことができる人材育成を目指します。

上述の目標を達成するために、経営コース中心の専門分野教育を特化し、必修科目及び選択必修科目を再編成しています。このコース所属の学生は、マーケティング戦略と経営組織の理論を主とする諸経営科目を縦断的に、経済学や情報科学などの科目を横断的に学修することによって、経営の基本的な知識と技法を的確に理解できる能力を持ち、仕事を効率的に進めるための幅広い知識とスキルを身につけて、経営の視点からビジネス上の諸問題を整理・分析・解決できる人材となることが期待されています。

想定される進路

1. 企業マネジメント全般への参画
2. 企業における経営情報を活用した経営組織の在り方や経営戦略の立案、実行
3. 企業における経営情報システムの立案、実行



会計史、簿記、財務会計

経営コース長・教授
津村 怜花

複式簿記は13～14世紀のイタリアで誕生し、世界各国に伝播しました。日本にも明治初期に「輸入」されます。なぜ複式簿記は各国に伝播し得たのでしょうか?このような疑問を探究することで、会計史は現在や未来の会計の問題等を考えるうえでの視点を提供するとともに、歴史を解き明かす、魅力ある研究分野です。

右の書籍・論文から、会計史の知識や会計史研究の魅力を知っていただけると幸いです。



ドイツと日本の経営学説、企業倫理の理論と実践ほか

経営コース・教授
西村 剛

ゼミのテーマは「ワーク・ライフ・バランス (Work Life Balance) の理論的・実践的研究」です。「仕事と生活の調和」について学んでいきます。現在「働き方改革」が注目されるなかで、日本的雇用慣行は徐々に変化しつつも依然として労働者に過酷な労働条件を突きつけています。例えば長時間労働、過労死・過労自殺、正規-非正規労働者の処遇格差など。こうした過酷な労働条件のもとで労働者はどのように企業と関わり、どう対応していくべきかを探っていきます。





健康とスポーツの科学

経営コース・教授

藤岩 秀樹

教養教育の健康スポーツ科目を担当しています。健康スポーツ科目は、「健康スポーツ学」(講義)、「健康スポーツ実習Ⅰ」、「健康スポーツ実習Ⅱ」、「野外スポーツ実習」からなっています。身体運動やスポーツを媒介に、生活の基本である健康・体力に関する正しい知識と、健康づくりの具体的方法に関する知識や実践能力の獲得をめざしています。



会社法

経営コース・准教授

王 佳子

企業の中で最も多いのが「会社」ですが、アメリカのシカゴ学派は、会社を、「契約の束」と定義しています。この考え方は、会社が無数の契約を通して、組織を形成し、さまざまな取引活動を展開しているという実態をよく捉えています。それでは、会社は、契約を結ぶことでどのような権利を有し義務を負うことになり、その権利を実現するためにはどのような手段を採ることができ、義務を履行しない際に誰がどのような責任を負うことになるのでしょうか。

本研究室は、具体的な事例をもとに、こういった問題について検討をしています。



租税法

経営コース・教授

前田 謙二

税金は公共サービスを提供するためなどに必要であり、国会で決められた法律(税法)に基づいて納められます。人間は生きていくために日々様々な取引を行っていますが、すべての取引が税法と関わっています。税法を知らないために損をすることもあります。では、税法にはどのようなルール(概念・条文・判例)があり、どのような問題があるのでしょうか? 租税法の研究とはそれらの問題解決や経済の変化に応じ税法はどのようにあるべきかを考えるものです。



経営戦略論、経営組織論

経営コース・准教授

横澤 幸宏

皆さんは、日々の生活や仕事のなかで常に意思決定を行っています。本研究室では、経営学という学問を通じて、企業経営や組織運営における人や組織の意思決定について学びます。特に、経営学のなかでも、経営戦略論、経営組織論、イノベーション論などの分野を中心に学び、企業が業績を高めるためにはどうしたらよいのか、また個人や組織が目標を達成するためにはどうしたらよいのかについて考えていきます。経営学で学ぶ経営理論は、企業経営だけでなく、日常生活においても幅広く応用することができます。経営学の研究を通じて、知識を学ぶとともに、自分の頭で考える習慣を身につけていただければと思っています。





国際法、安全保障論

経営コース・講師

吉良 悟

武力行使の規律、自衛権を研究しています。今日、自衛権は、国家が単独で武力を行使する際のほぼ唯一の法的根拠になっています。2022年のロシアによるウクライナ侵攻も、ロシアは自衛権を根拠としました。残念ながら、国際社会から武力紛争をなくすことは、いまだ現実的ではありません。しかし、武力行使を規律する試みは意味を持ち続けます。自衛権を考えるということは、武力紛争の機会を減らすことに繋がります。ゼミナールでは、国際法、日本国憲法を基軸に、国際紛争に関する法的問題や日本の安全をいかに確保するのかを議論します。



マーケティング、消費者行動

経営コース・講師

渡邊 久晃

専門はマーケティングで、なかでも消費者の購買・消費・処分に関わる意思決定について研究する消費者行動と呼ばれる領域に関心があります。私たち消費者は普段、製品やサービスを購買するとき、常に経済合理性を意識しているわけではなく、何気なく購買することのほうが多いと思います。そうした意思決定では認知や感情、感覚といった様々な心理的要因が影響しています。本研究室では、消費者行動の背後にある心理的メカニズムについて研究することで、マーケティング的な諸課題に対して示唆や含意を提供することを目指します。



管理会計の実質的な利用と見せかけの利用 管理会計の普及：ネットワーク分析

経営コース・講師

田中 政旭

管理会計は、主に2つの役割があります。1つは、企業の目的や戦略の実行をしていくために、組織構成員がバラバラにならないように取りまとめていく役割です。もう1つは、マネジャーが意思決定する際に役立つ情報を提供する役割です。どちらの役割も、企業が自分たちの目的や目標を実現する上で、重要なものです。本研究室では、上記の役割を果たす管理会計をどのように設計をすれば、期待した効果が得られるか、また逆に負の効果がもたらされるのかについて研究しています。そして、そうした研究によって、学術的含意と実践的含意の両方を提供することを目指しています。



主要専門科目 講義風景
経済学入門Ⅰ（ミクロ）
（最適な資源配分や消費者行動に触れる「小さい」経済学の基盤）

情報コースでは、現代社会の基盤となっている情報技術の基本原理を中心に学び、学修事項をデータサイエンスの基礎、経済学、経営学と関連づけてより深めます。情報技術に裏付けられたデータ分析能力や課題解決能力を身につけ、情報システムの設計から運用までを担当できる社会で広く活躍できる人材を育成します。

日本の社会では、マーケット（経済）とビジネス（経営）が分かり、データサイエンスの基礎を身につけたICT技術者やコンサルタントが不足しています。例えば、ユーザ企業の置かれている市場や経営の特徴を数理的に分析し、ユーザ企業の弱みを補強し強みをさらに強化するICTソリューションを提案し、自社の経営戦略に基づいてICT戦略を立案し、それを実現する情報システムを設計したりする人材です。このようなことは工学系の情報学科を出たICT技術者には難しく、情報科学に加えて経済学や経営学も学ぶ本学科の情報コース卒業生が活躍できる場だと思えます。

将来このような仕事に就く人材の育成を目指して、情報コースのカリキュラムは設計されています。情報関連科目は大きく3種類に分けられます。1つ目はコンピュータを用いて情報を適切に処理する能力を養う科目です。レポートや卒業研究など大学での学修・研究活動や、卒業後に社会における様々な活動において必要となる知識とスキルを修得するための科目です。「情報活用基礎」「情報とコンピュータ」「統計学」などの科目があります。2つ目は情報分野のより専門的な科目です。プログラミング言語によるソフトウェア開発、ネットワークの仕組みや特徴、情報システムの設計方法など、情報科学の様々な分野を学修します。データサイエンスに関連して、ビッグデータの活用や人工知能の応用なども学修します。「プログラミング」「ネットワーク科学」「情報システム設計」「機械学習と人工知能」などの科目があります。3つ目は経済分野、経営分野と情報分野が重なる領域の科目です。異なる学問分野が交差することで生まれた新しい学問を学びます。「ビジネスとデータサイエンス」「経済経営情報実習」「経営情報論」などの科目があります。

想定される進路

1. 情報関連の企業・組織における次世代のシステム・サービス・技術の研究開発
2. 企業・組織の経営戦略に基づいた、最新技術を活用したICT戦略の提案・策定とその実現の推進
3. 企業・組織におけるICT戦略実現のための最適な情報システムの企画・設計・開発・運用の指揮



情報ネットワーク、機械学習

情報コース長・教授

本田 治

ゼミでは情報ネットワークを主なテーマとしていますが、学生の研究テーマとしては加えて機械学習もテーマとしています。情報ネットワークの研究では、ネットワーク上で効率良く通信をしたい、通信の品質を制御したい、などの要求をどのようにすれば実現できるのかについて扱っています。機械学習の研究では、機械学習を利用して様々なデータを分析したり、機械学習の出力の多様性などを扱っています。



情報システム設計ほか

情報コース・教授

有吉 勇介

情報システム設計とは、ユーザの「こんな情報システムが欲しい」という要望を分析整理して、仕様書と呼ばれるソフトウェアの設計図にまとめ上げるまでの一連の作業のことです。最近の日本では、仕様書は日本人が作り、プログラミングはインドやベトナムなどで行う国際分業が多くなってきています。その結果、日本のIT系企業ではプログラマよりも、仕様書づくりに関わる人が増えてきています。そのため情報系の大学ではプログラミングと同じぐらいに情報システム設計の勉強が重要になってきています。





観光の支援に役立つ データベース連携型 Webシステムの開発

情報コース・教授

高山 毅

Covid-19は、観光業界にも膨大な被害をもたらしました。本ゼミでは、ITや観光情報学の立場から、観光の復興およびそこに留まらずに更なる振興を、観光者側または観光事業者側で支援し得るシステムの開発を行ないます。また、世界の潮流を見据え、「SDGs(持続可能な開発目標)を考慮した観光支援システム」「観光DX(デジタル・トランスフォーメーション)」にも取り組みます。

基盤技術としては、「Webアプリの開発手法」、および「データベースと連携できるシステムを開発するノウハウ」を習得します。IT関連の進路を選択肢にできるように、授業やゼミで力を貯め、社会で実際に役立ち得るシステムを開発します。



数学教育、情報教育

情報コース・教授

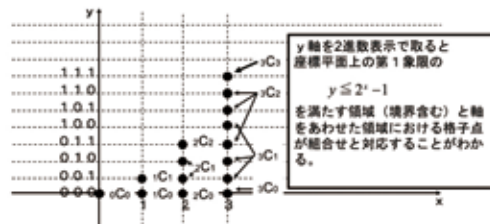
南郷 毅

私の研究室では、学習指導要領や教育に関する社会的背景を理解した上で、教育に関する諸問題を様々な角度から検討します。例えば、「教科間の関連を図る指導が重要である」という命題に対して、「数学と情報の学習事項を関連させた教材」を開発したりします。図で示しているのは、情報で学ぶ「情報のデジタル表現」を活用し、数学で学ぶ「組合せ」を解釈した教材の一部です。2進数を活用し、組合せを座標平面上で表現しています。

最近では、IT企業でも教育関連の案件で教育への理解が求められるようです。教育のわかるIT技術者になってみませんか？

2進数表示を活用した組合せの解釈

■ 座標平面上に表現された組合せ



ビッグデータ、人工知能

情報コース・准教授

木村 文則

文章(テキスト)を中心とした「ビッグデータ」の分析が主な研究テーマです。最近注目されている「人工知能」にも取り組んでおり、テキストだけでなく画像も対象にしています。また、通常のゼミとは別に「人工知能勉強会」を開催し、関心のある学生がゼミの垣根を超えて集まり、協力しながら学んでいます。新しい技術についても積極的に学び、社会で活躍できる力を蓄えてもらいたいと思っています。



解析的整数論

情報コース・准教授

宮川 貴史

解析的整数論という分野の多重ゼータ関数について研究しています。ゼータ関数とは、素数の背景にある関数で

$$\zeta(s) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s} = 1 + \frac{1}{2^s} + \frac{1}{3^s} + \dots \quad (\text{Re}(s) > 1)$$

という形をしています。1と自身でしか割り切れない自然数を素数と呼んでいますが、素数の列 2,3,5,7,11,13,17,19,... は未だ規則性が解明されず、関連としてリーマン予想という最大の未解決問題が残されています。

リーマン予想 (懸賞金 100 万ドル)

$\zeta(s) = 0$ ($0 < \text{Re}(s) < 1$) ならば $\text{Re}(s) = \frac{1}{2}$ である (?)

この予想解決に向けた試みによりゼータ関数の理論は大きく発展し、そこで新たに生まれた多重ゼータ関数の理論が注目されています。

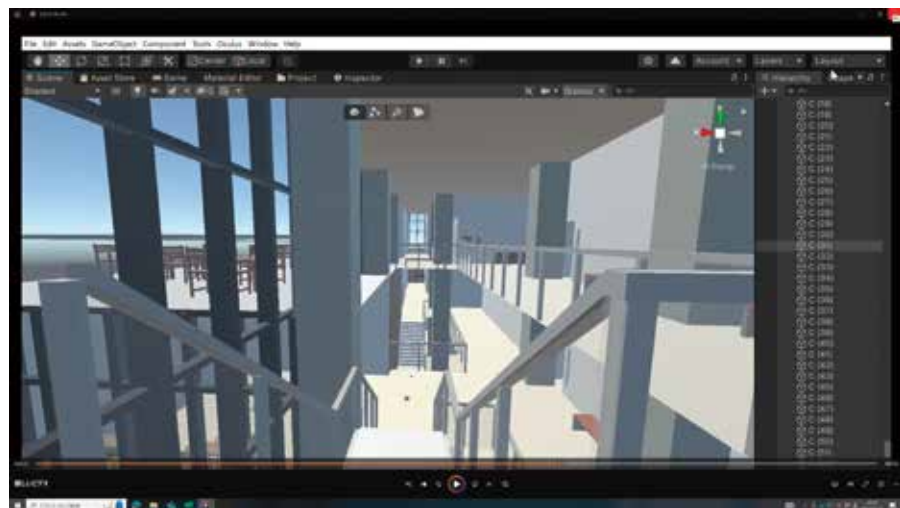
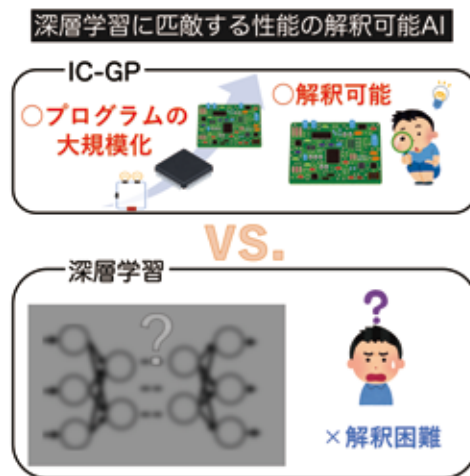




遺伝的プログラミングを用いた解釈可能 AI の開発

情報コース・講師
秋川 元宏

本ゼミでは深層学習を含む、人工知能全般についての研究を展開しています。人工知能技術は現在様々なサービスと組み合わせられており、すでに我々の日常に溶け込んでいます。如何に人工技術を経済活動へ組み込んでいけるかを基礎から応用まで幅広く取り扱います。また、これは人工知能技術の安全性はこれから重要な研究分野となります。そのため、近年は複雑化している人工知能技術を安全に用いるための研究を特に推し進めています。



情報コース 講義風景
専門演習Ⅱb (本田ゼミ)
(仮想空間における尾道市立大学施設の構築)

高難度の国家資格である「公認会計士試験」に挑戦する学生もいます。

高難度資格のための勉強は、長期間に渡る持続的な学習が不可欠です。

翠明館などの施設をはじめ、集中して勉強に打ち込める環境が十分に整っている本学の体制は、学生の夢の実現に向けた一助を担っています。

令和6年公認会計士試験
論文式試験

令和7年公認会計士試験
第1回短答式試験

願書出願者数：21,573人 合格率：7.4%

願書出願者数：15,990人
合格率：8.6%

合格率：最終合格者数ないし短答式試験合格者数を願書出願者数で除して算出



短答式、論文式に合格

経済情報学科
経営コース 卒業生

川崎 歩夢

岡山県立玉島高等学校出身



どうして公認会計士を目指したの？

高校までの学習内容とは一味違う簿記やITパスポートなどのビジネス関連資格に興味を持ち、さらに専門的な知識や経験を身に付けたいと思ったからです。



短答式に合格

経済情報学科
経営コース 卒業生

大森 輝

岡山県立西大寺高等学校出身



どうして公認会計士を目指したの？

大学で何かをやり遂げたいと考えたときに、特に難しいとされる公認会計士が目にとまりました。「公認会計士」という名前に憧れたこともあってチャレンジすることになりました。

大学の授業や施設はどう役に立つの？

会計系の講義科目が豊富で、試験対策だけではなく深い内容を学ぶことができました。経済系や情報系の講義も卒業後のキャリアには必要なので、充実していました。

また、大学にある自習室が利用しやすく、集中して勉強ができる環境なので、とてもおすすめです。

未来の後輩にメッセージをお願いします！

公認会計士は決して簡単な資格ではないので、諦めずに勉強を継続する精神力や覚悟が大切です。

また、合格したという経験はこれから先の人生で困難に直面した場合でも揺るがない自信になるので、興味がある方や何かやりたいと考えている人は、勇気をもって挑戦してほしいと思います。

大学の授業や施設はどう役に立つの？

試験対策をしていると結論だけを暗記するケースが多いのですが、大学の講義では考え方のプロセスや裏側を知ることができて、予備校などでの授業とはまた違った楽しさがありました。大学の施設では、夜間や休日でも利用できる自習室を大いに活用していました。

未来の後輩にメッセージをお願いします！

受験しないで挑戦をやめてしまう方もいるので、まずは短答式試験を受験することを目標にして頑張ってください。

一定期間の勉強を続ける、試験を申し込む、実際に試験を受ける、結果を自己採点するといった形でステップアップを目指してください。

2024 年度卒業論文 (各ゼミナールの代表論文)

○ライブエンターテインメント市場の経済波及効果と動向

○ NFT 画像マーケットプレイスの設計と試作

○趣味によるソーシャルメディアの選択

○特許権の消尽が認められなかった事例・最判平成 19 年 11 月 8 日民集
第 61 巻 8 号 2989 頁

○木質ペレットが高知県梶原町にもたらす地域循環についての分析

○交差サンプリングによる DCGAN 少数データ学習の改善

○鳥根県出雲市の中山間地域維持・存続のための若者向けアプローチ
方法の考察○産業遺産を含むインフラ観光における観光資源の価値向上を支援する
システム〜ダム、鉱山、橋梁の、標準的情報提供方式の提案○ソーシャルビジネスにおける課題解決アプローチと事業展開後のさらな
る可能性―「尾道帆布」を事例として

○宇宙ビジネスの発展と宇宙の SDGs―日本企業の現状と取組―

○理解の仕組みに根差したアルゴリズム教材の開発

○社会事業家の生成に関する一考察―大原孫三郎の足跡を辿る―

○久布白落実と廃娯運動―現代まで続く身売り問題―

○市街化調整区域を発展させるには

○地方公共団体の自主財源の必要性とあり方―法定外税に着目して―

○チケットの不正転売と対策

○尾道山波伝統行事の継承と課題―フィールドワークからの提言―

○奨学金返還支援制度を導入する企業の特徴

すべての
卒業論文タイトルは
こちら

経済コース卒論発表

「尾道山波伝統行事の課題と継承―フィールドワークからの提言―」

森本ゼミ 大久保 緋菜

本研究では、広島県尾道市山波町に伝わる山波伝統行事のうち、広島県尾道市の民俗文化財に登録されている艮神社の餅搗神事に焦点を当てました。歴史的伝統のある艮神社の餅搗神事が、コロナ禍や継承問題を経て、どのような変化を遂げたのか、また、今後どのような展望が見られるのか、関係者への聞き取り調査や地元小学校でのアンケート調査といったフィールドワークを通して考察しました。

艮神社の餅搗神事は、現代化や少子高齢化に伴い、頭屋制度や潮垢離といった神事の文化が廃止される一方で、初の女性参加が認められるなど、新たな神事の形式を選択することで、柔軟かつ迅速に継承問題の解決に取り組んでいます。時代に伴う変化が見られるとき、神事の歴史だけでなく、神事が直面している現状と次世代を担う人々の意識を調査し、記録に残すことの重要性が明確になりました。



経営コース卒論発表

「ソーシャルビジネスにおける課題解決アプローチと事業展開後の更なる可能性―「尾道帆布」を事例として―」

趙ゼミ 山元 海鈴

本研究の目的は、尾道帆布を一事例として、ソーシャルビジネスにおける課題解決アプローチを明らかにすることです。インタビュー結果をもとに、グラウンデッド・セオリー・アプローチという分析手法を用いて、研究結果及び考察を導き出しました。

分析結果より、尾道帆布は (1) 資金不足、(2) 認知度の低さ、(3) 外部機関との連携・協働が進んでいない、以上3つの課題を乗り越えていることが明らかになりました。さらに、資金を通じて消費者と社会課題解決を繋ぐアプローチ、事業主体が抱える強い思い、地の利を活かした繋がり構築、等がソーシャルビジネスにおける課題解決の重要な要素として挙げられるといった、新たな示唆も与えました。



情報コース卒論発表

「有益な活用の基盤となる、観光のライフログ管理システム」

高山ゼミ 目次 彩恵

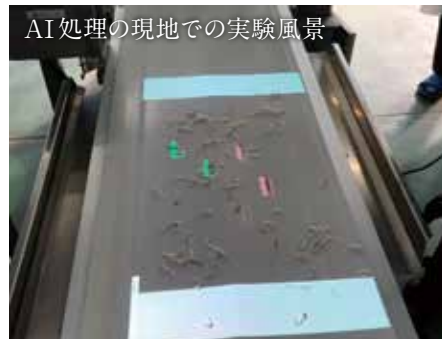
近年、ライフログを観光の振り返りに活用する「観光ライフログ」への注目が高まっています。しかし、観光ライフログの作成や活用に関する検討は、充分とは言えません。

そこで本研究では、観光のライフログに基づき、網羅／達成状況を可視化することで、未訪問の観光地や観光スポットへの訪問意欲を高めることを支援するシステムを開発・提案しました。具体的には、①活用する機能を踏まえた、観光ライフログ記録メニュー、②観光ライフログに基づく、地図表示での網羅／達成状況の閲覧機能、③観光ライフログに基づく、地方別／日本三大〇〇別での網羅／達成状況の閲覧機能、④観光ライフログ作成支援メニュー、⑤重要な写真のコメント作成を支援するメニュー、の5つの機能です。

さらに、提案システムを用いて評価実験を行った結果、提案システムは有効との結果を得られました。



地域貢献



経済情報学部では、経済・経営・情報のそれぞれの分野で、地域に寄り添う教育研究活動に取り組んでいます。

例年、商店街との連携企画や市民講座等、多彩な活動が見られます。本学科の特徴を生かしつつ、データと想像力と現場への関心力を駆使して町の振興を考えることもできます。



尾道の歴史をテーマにした森本ゼミ公開講座
(尾道市商業会議所記念館)



木村・本田研究室受託研究
「AIを用いた水産塩干物製造における異物選別」



尾道市主催のプログラミング体験教室のサポート風景
(尾道市役所)

少人数教育・ゼミ活動

尾道市立大学の特色として「少人数教育」を挙げることができます。経済情報学科は他の2学科に比べて多人数ですが、教育の場を複数かつ多層に分けて提供することで、多様なニーズに応えつつ、きめ細やかな指導ができるように工夫しています。1年次の基礎演習は全員が履修する必修科目で、大学での学びのイントロとなります。3年次から4年次にかけて履修する専門演習（ゼミ）も必修科目です。指導教員のもと、全員が卒業論文を仕上げなければなりません。これは教員が一人ひとりの学生とそれだけ真剣に向き合うということです。他にも、より専門性の高い内容を少数精鋭で実践する特別演習も用意しています。教わるだけでなく教員とともに研究に励み、かつ楽しむ場として、この演習を活用できます。学生の「やる気」という最大のニーズに応えて、経済情報学科は学びの場を惜しみなく創出していきます。



早明浦ダムの見学風景 (岡本ゼミ)



国会議事堂への見学道中 (前田ゼミ)